



日機装通信

第82期

2022年1月1日~12月31日



「ものづくりで、社会の進化を支え続ける日機装」という当社の原点、存在意義に立ち返り、長期的なサステナビリティ経営を実現します。

代表取締役社長 甲斐 敏彦



Ⅱ 中期経営計画について

2020年12月期にスタートした新中期経営計画「Nikkiso 2025」は、初年度からコロナ禍で事業環境が一変し、当社が対処すべき経営課題も大きく変化してきました。一方で、低・脱炭素社会に向けた大きなビジネスチャンスも到来しており、事業ポートフォリオの見直しの一環として、主要子会社であるLEWA社、Geveke社の全株式譲渡を行いました。こうした環境の変化や経営課題に対応するとともに、「ものづくりで、社会の進化を支え続ける日機装」という当社の原点、存在意義に立ち返り、長期的なサステナビリティ経営を実現するために、2023年から始まる後半3カ年の中期経営計画を「Nikkiso 2025 フェーズ2」として刷新しました。

「Nikkiso 2025 フェーズ2」では、経営基盤の強化に取り組むとともに、中核事業との親和性や競争優位性を踏まえた経営資源の最適配分を進めます。資本収益性を重視した事業ポートフォリオを構築し、収益力向上により獲得した資金・経営資源を成長分野、新市場創出に向けた研究・技術開発に投入するというサイクルを適切に回す体制を整えることで長期的なサステナビリティ経営を実現していきます。

中期経営計画「Nikkiso 2025 フェーズ2」

「ものづくりで、社会の進化を支え続ける日機装」という長期ビジョンを掲げ、フェーズ2では「技術力の向上」「事業ポートフォリオの再構築」「経営基盤の強化」という基本方針のもと、各施策に取り組みます。最終年度である2025年12月期には、売上収益2,100億円、営業利益140億円（営業利益率6.7%）を計画しています。

長期ビジョン

Manufacturing Transformer

ものづくりで、社会の進化を支え続ける日機装

基本方針

1. 技術力の向上

- ▶ 研究・技術開発機能の全社統合によるリソース最適化、事業をまたいだ共創によるシナジー促進
- ▶ 低炭素・脱炭素時代の本格的な到来（2020年代後半以降）を見据えた先端技術の取り組みの強化

2. 事業ポートフォリオの再構築

- ▶ 当社の優位性、競争力が高い市場へ経営リソースを投入、注力
- ▶ 不採算事業、中核事業との親和性が低い事業を見極め、選択と集中を実施
- ▶ 事業収益力の改善に向けた価格転嫁およびコスト削減、業務効率化の一層の推進

3. 経営基盤の強化

- ▶ グローバルでの市場拡大に向けた海外拠点の整備・体制強化、グループ会社間連携の強化
- ▶ 製品安定供給に向けたサプライチェーンマネジメントの強化
- ▶ フリーキャッシュフローの継続的な創出による財務健全性の維持、向上

業績目標

FY2025

売上収益

2,100億円

営業利益

140億円

営業利益率

6.7%

ROE

7.0%水準

総還元性向

35.0%水準

工業部門

受注高 **1,269**億円
(前期比12.4%増)

売上収益 **1,023**億円
(前期比6.0%増)

営業利益 **29**億円
(前期比32.3%減)

インダストリアル事業

受注高 **1,128**億円
(前期比12.9%増)

売上収益 **882**億円
(前期比5.8%増)

営業利益 **38**億円
(前期比41.2%減)



産業用ポンプ・システム、発電プラント向け水質調整装置等の製造・販売・メンテナンスを行なっています。

- CE&IGグループはLNG・水素のエネルギー関連を中心に大きく受注を拡大し、売上収益も伸長。体制整備等の先行費用増加やインフレに伴う人件費の上昇等があるものの、2023年以降の本格的な利益成長を見込む。
- 国内は、アンモニア・水素の実用化に向けた研究開発に注力、数年先の実用化を目指す。



航空宇宙事業

受注高 **119**億円
(前期比26.0%増)

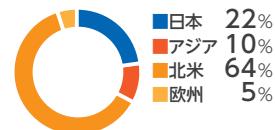
売上収益 **119**億円
(前期比23.4%増)

営業利益 **△5**億円



航空機の逆噴射装置用関連部品を中心に炭素繊維強化プラスチック製品の製造・販売を行なっています。

- 世界的な小型航空機中心の需要回復が顕著で、主力のカスケードの売上収益は順調に回復。
- 航空機産業のサプライチェーン再構築・見直しに合わせた取り組みを強化し、ベトナム・ハノイ工場においてエアバスA220向けの新規部品の受注を獲得。



医療部門

受注高 **787**億円
(前期比6.1%増)

売上収益 **752**億円
(前期比2.9%増)

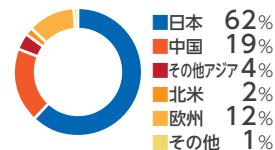
営業利益 **△10**億円

メディカル事業



血液透析に関連した製品や、人工臓器装置などの医療機器の製造・販売・メンテナンスを行なっています。

- 国内血液透析市場は、半導体等の部品不足による納期調整等で装置販売が減少。
- 海外市場は中国が引き続き好調。米国も含め、将来の海外向け装置販売の拡大に備えた増産と品質管理体制を整備。
- 国内向け装置販売の減少、原材料・部品価格や物流費の高騰による採算悪化に加えて、ヘルスケア事業の評価損が響き、大きく減益。



「Bright」は、社会を根底から支える日機装の技術や製品、人々に光をあてて紹介するためのWebメディアとして、2022年7月にオープンしました。「ものづくり」「くらしを豊かに」「いのちの現場」「日機装の文化」の4つのカテゴリで最新の取り組みを紹介しています。

ものづくり



LNGから水素まで、極低温の液体を送る
クライオジェニックポンプの開発とは

くらしを豊かに



「空飛ぶクルマ」の実用化はいつ？
eVTOLの基礎から最新情報まで徹底解説

いのちの現場



中国の血液透析市場の“いま”をレポート
保険制度から今後の動向まで

日機装の文化



日機装の文化・芸術支援活動
～加賀象嵌の保存・普及に向けて～

<https://bright.nikkiso.co.jp/>

スマートフォンはこちらから



東村山に「日機装技術研究所」設立 ～メディカル技術センター開設～

「日機装技術研究所」設立

2023年1月、当社は東村山に全事業の研究・技術開発機能を集約するため「日機装技術研究所」を設立しました。まずメディカル事業の技術開発機能を静岡から移管してメディカル技術センターを開設しました。今後、他事業の研究開発機能も順次整備していく計画です。

多様化するお客様のニーズに対応し続けるためには改善・改良レベルの開発から脱却し、当社独自の新たな基幹技術を開発することが不可欠であり、各事業の技術開発機能および知的財産管理等を集約するものです。

事業の垣根を越えて、当社の原点である独自の技術を磨き、新たな価値創造による企業価値の向上を目指してまいります。



新メディカル技術センター外観

新メディカル技術センター

人と人との「交流」がコンセプト

日本の血液透析装置のパイオニアとして培った既往技術を次世代に繋いでいくための「交流」、更なる技術革新へ向けた技術者同士の「交流」、社外の先進的な企業やアカデミアとのオープンイノベーションによる「交流」等を促進し、従来の画一的な業務運営では生み出されなかったイノベーションを起こすことを目指しています。

交流を促すオープンな環境とITインフラの導入

仕事の内容や目的に応じて柔軟に働く場所を変更でき、視覚的に遮るものを極力排したオープンなオフィス環境となっています。また、誰がどこで何をしているか、誰と交流しているか等がリアルタイムで分かるITインフラを導入し、コミュニケーションや業務の効率化も図ります。



施設内のいたるところに配置されたミーティングスペース



ガラス張りの仕切りによるオープンな環境

CE&IGグループが水素ステーション合計約77億円を受注

当社連結子会社グループであるClean Energy & Industrial Gases Group (CE&IGグループ) が、カリフォルニア州および韓国で10ヵ所を超える水素ステーションを受注しました。今回受注した水素ステーションは、350気圧および700気圧での充填を必要とする乗用車やバス、トラック向けで、2023年第4四半期～2024年第2四半期に稼働を予定しています。

CE&IGグループは、水素ステーションに必要な機器の提供のほか、水素ステーションの建設も含めて手掛けるものもあり、受注金額は合計で約77億円 (6,000万米ドル※1\$=129円) となります。

日機装グループは、今後も水素サプライチェーンへの参画を強化し、グローバル市場への展開も視野に入れ、更なる水素関連ビジネスの拡大を目指してまいります。



水素ステーション (FirstElement Fuel社提供)

SiCパワー半導体接合用シンタリング装置を発売

2022年10月、パワー半導体SiC (炭化ケイ素) モジュールの製造におけるシンタリング (焼結) 装置「3Dシンター」を発売しました。この装置は、EV車で採用が急増中のSiCパワー半導体の基板への接合工程において、当社独自の3Dプレス方式により、SiCチップと基板をシンタリング接合する装置です。特殊ゲル状加圧媒体を用いた立体的なプレスで、高さが異なるチップや基板を均一に一括接合できるため、従来の平面で加圧するメタルプレス方式と比べて、効率的かつ高品質なモジュールの製造が可能となります。

SiCパワー半導体はEV車の航続距離を延ばすことや、バッテリーの小型化に貢献できる半導体として、現在普及が進んでいます。今後ますます実用化が進んでいくEV車や、充電ステーションに欠かせないSiCパワー半導体の製造装置として、当社の3Dシンタリング装置の活用が期待されています。



3Dシンター DSシリーズ

会社概要

創業日 1953年（昭和28年）12月26日（登記上の設立日は1950年3月7日）
資本金 6,544,339,191円
従業員数 連結7,629名（単体2,027名）

役員一覧 (2023年3月30日現在)

取締役

代表取締役 社長	甲斐敏彦	取締役 執行役員	木下良彦
取締役 執行役員	山村優	取締役 執行役員	齋藤賢治
取締役 執行役員	加藤孝一	取締役	ピーター・ワグナー
社外取締役	広瀬晴子	社外取締役	中久保満昭
社外取締役	福田順子		

監査役

常勤監査役	網野久直	常勤監査役	竹内基裕
社外監査役	小笠原直	社外監査役	仲谷栄一郎

執行役員

執行役員	中津留和男	執行役員	村上雅治
執行役員	泉幸慶	執行役員	渡辺恭介
執行役員	中村干城	執行役員	戸村健二
執行役員	横田直己		



詳しい財務情報については、有価証券報告書をご覧ください。

https://www.nikkiso.co.jp/ir/library/security_reports.html